

らし

寒い日が続くと眼圧が上がりやすい。緑内障の発症や進行に関わる眼圧と気温の関連について、島根大医学部（出雲市塩冶町）などの研究グループが研究

結果を明らかにした。気温から眼圧へ数日から数週間遅れて影響し、気象を考慮した緑内障管理の重要性が示唆された。（吉田真人）

眼圧は寒い日続くと上がりやすい

島根大医学部 気温との関連性研究



気温と眼圧の関係について説明する谷戸正樹教授（左）と吉田悠人助教
|| 出雲市塩冶町、島根大医学部

緑内障は主に眼球内を満たす液体の圧力（眼圧）が上昇することで目と脳をつなぐ視神経が萎縮し、徐々に視野が狭くなる病気。国内では失明原因の第1位で、40歳以上からの発症が多い。60歳以上では1割以上の患者がいるとされる。初期は自覚症状がほとんどないため発見が遅れやすく、一度失われた視野は元に戻せない。研究に

緑内障の因子、管理の手がかりに

携わる島根大医学部眼科学講座の谷戸正樹教授は「多くの人が診断されないまま日常生活を送っている」と警鐘を鳴らす。

眼圧の上昇は、緑内障の発症や進行に関わる最も重要なリスク因子の一つ。気温が影響し得ることは知られていたが、どのように影響するのかが十分に解明されていなかった。

吉田悠人助教や谷戸教授をはじめとする研究グループは島根大医学部付属病院の外来患者を対象

- 寒い時期（平均気温2.2～12.2度）に眼圧が上がりやすい
- 気温の変化が数日～数週間遅れて眼圧に影響する



気温と眼圧の関係 ※取材を基に作成

に、2018～23年に測定された約3万4千件の眼圧データと、同期間の日ごとの気温データを使い、気温と眼圧の関係を検証した。研究によると、平均気温2・2～12・2度の寒い時期に眼圧が上がりやすいことや、気温の変化が数日から数週間遅れて眼圧に影響する「ラグ効果」を確認。眼科学・視覚科学分野の国際学術雑誌「IOVS」に掲載された。研究グループは気象条件と眼圧変動のメカニズムについてさらに解析を進め、自律神経やホルモンなどが与える影響についても検討する。吉田助教は患者それぞれの事情や、気象条件に応じて「将来的には個別化医療につなげていければと考えている」と語る。気候は地域で異なり、条件に合わせて治療方針を変える必要があるかなども研究していきたいとする。緑内障は年齢以外にも近視の人や近親者に患者がいる人も発症リスクが高い。谷戸教授は、早期に発見できれば点眼薬やレーザー治療などで眼圧を下げ、視力や視野を維持できるとして「ぜひ今の時期に眼科を受診してほしい」と呼びかける。3月8～14日は世界緑内障週間となっている。